放課後児童クラブ指導員のありかた

ＫＭテクノソリューションズ　代表　南側晃一

１．指導員「３つの心得」

①こどもを尊敬する
②こどもを信頼する
③こどもに感謝する

こどもは無限の可能性をもっています それは、頭が固くなった大人よりも「すご～い」ことです ですから、大人はこどもを尊敬し、こどもを信頼し、こどもに感謝するのです

２．指導員「３つの役割り」

①自尊心を育てる

こどもに「生きていることの喜び」や、「生きていることのすばらしさ」、さらには「自分を大切にすることの喜び」を教えます。その方法は、常に「あなたはすばらしい」「あなたは毎日、どんどんよくなるね」と、前向きの暗示をかけることです。

②自立心を育てる

こどもの自立心を育てるには、こどもとの会話の方法が大切です。たとえば何かをしてほしいとき、何かをしてあげるときは、「あなたは何をしてほしいの？」とか、「あなたは今、何をすべきなの」と問いかけます。また、こどもが何か意見を言うと、「それはいい考えだ」と、ほめてあげます。こうしたこどもへの対応が、こどもの自立心を育てます。「自立する」というのは、①自分で考え、②自分で行動し、③自分で責任をとることです。

③こどもを伸ばす

こどもは、自分を信じてくれる人には、よい面を見せようとします。ですから、こどもを伸ばすには、こどもを信じることです。「あなたはすばらしい」という思いが、こどもを伸ばします。こどもたちに「あなたはすばらしい」と言ってあげて下さい。

３．指導の「３つの方法」

①命令文ではなく疑問文で

私たちは、ついついこどもたちに命令してしまいます。でも、命令は絶対にしてはいけません。命令は、こどもの自主性を奪い、自尊心を傷つけます。ですから、こどもへの声がけは「命令文」ではなく「疑問文」で行います。質問することで、こどもは自分で考えることになります。この時、特に注意すべきことは、笑顔で明るく優しく質問することです。怖い顔をして質問をすれば、それは命令となり、場合によっては脅迫になります。こどもとの「暖かい心の繋がり」を大切にしなければなりません。

「手をあらいなさい」ではなく「手をあらった？」
「はやく着替えなさい」ではなく「いつ着替えるの？」
「宿題をしなさい」ではなく「宿題する？」
「早くしなさい」ではなく「いつするの？」
「片づけなさい」ではなく「片づけてくれる？」

②こどもの発言を否定しないで、こどもの心をそのまま受け止めて共感する

指導員の質問に対して、こどもが自分で考えて答えを出した時は「なるほど」「すご～い」「やるね～」「それはいい考えだね」などと共感します。

「うん、手をあらったよ」 → 「えらいね～、ちゃんとできたんだ」
「まだ洗ってない」 → 「そうか、じゃあ先に手を洗おうか」
「これ終わってから着替える」 → 「うん、わかった」
「あと１０分してから宿題する」 → 「了解、10 分たったら知らせるね」
「宿題したくない」 → 「そうか、今日はやる気がしないんだね、じゃあ少し遊んでから宿題やろうか」
「片づけるの面倒くさい」 → 「そうか、じゃあ一緒に片付けよう」

③やるべきことが出来れば感謝する

こどもが自分でできた時は、「ありがとう」「頑張ったね」などと感謝や励ましの気持ちを伝えましょう。

「宿題終わったよ」 → 「がんばったね～」
「片づけたよ」 → 「ありがとう」
「着替えが終わったよ」 → 「えらいね」

さて、指導の方法として上記したように、疑問文で問いかけることが大切ですが、質問の種類には 5 種類あると言われています。以下に示す５種類の質問方法のうち、①から④の質問は、こどもが深く考えずに答えられますが、⑤最高の質問は、こどもが自分と対話し、気づいたことを整理し、想像したりしなければ答えられない質問です。この「最高の質問」を重ねることで、こどもに自然と自分で考えるクセがついていきます。常に「こどもが自分で考える質問」を心がけてください。

【５つの種類の質問】

①疑問：自分が知りたいことを尋ねる質問
「手を洗った？」「カバン持った？」
②クイズ：正解が決まっている質問、相手を試す質問
「お片付けしなくていいの？」
③命令質問：行動を強いる質問
「もっとしっかり持ったほうがいいんじゃないの？」
④尋問（じんもん）：言い訳しか生まない質問
「なんで食べないの？」
⑤最高の質問：こどもの未来を切り開く質問
「どうやったら、うまくいくかな？」

また、質問をするときに大切なことは、①答えはすべて正解、②答えはでなくてもいい、③答えをすべて受けとめる、ことです。こどもが一生懸命に考えて出した答えに、「その考えはおかしいじゃない？」などと否定しないでください。また、「はやく答えてね？」などと催促しないで下さい。正しい答えが必要なのではありません。早く答えを出すことが必要なのではありません。こどもが一生懸命に「考えること」が重要であり、その考えることを支援してあげて下さい。

【保育のポイント】

- こどもの学びに対して「何を」だけでなく「どうやって」学ぶかに着目する
- 少し努力すればできるという課題を用意して、スモールステップでの「できた」を積み重ねてあげる
- こどもが質問をしてきたら「いい質問だね」「これに興味をもつなんてすごいね」とほめる
- こどもが「なぜ？」と聞いてきたとき、正しい答えを与えるだけでなく、「なんでだろうね？」と共感して聞き返すことも大切
- 行動を先取りした言葉がけをすると、自分で考えることができなくなる
- 一方的な禁止は NG

【若い指導員へ】

指導員は、こどもと遊ぶことが仕事ではありません。こどもにとって一番大切なことは、こどもどうしで遊ぶことです。そこで指導員の仕事は、こどもたちが一緒に遊べるように支援することです。例えば、こどもが「トランプやろう」と誘ってきた時、単にその子と遊ぶだけでなく、他のこどもたちにも「トランプする人いるかな？」と声を掛けて、集まってきたこどもたちと一緒に遊びます。そして、①楽しそうにみんなと遊ぶ、②他のこどもが興味をもって「私もやりたい」と参加してくる、③人数が多くなれば状況を見て「ごめん、ちょっと用事あるから抜けるね、また後でお願いね」といって、そのゲームから抜けて、こどもたちだけで遊べるように導きます。また、暇そうに一人遊んでいる子がいれば、「一緒にあそばないかい？」「何かやりたいことある？」と声を掛けることも大切です。主役はこどもたちであり、指導員はあくまでも「黒子になる」ことです。あなたは自分が中心となってこどもたちと遊んでいませんか。それは単にあなたの自己満足でしかなく、指導員として失格です。あなたは指導員として何をすべきか？日々の保育実践の中で、研鑽していって下さい。

2020 年 4 月 1 日